

令和7年12月2日

令和7年度健康危機発生時の保健活動に関する推進会議

台風の被災経験を踏まえた 保健師の取組 ～千葉県鴨川市の取組～

鴨川市市民福祉部福祉課

田中和代



鴨川市のイメージキャラクター
「たいよう君」「まっつー」「ななちゃん」

今日のお話

1. 鴨川市の概況
2. 保健師の配置と災害時組織図
3. 令和元年の台風被害と振り返り
4. 被災経験を踏まえた取組
5. 今後について

1. 鴨川市の概況

〔鴨川市全体〕

【面 積】 191.14km²

【世帯数】 15,995世帯（一世帯あたり1.87人）

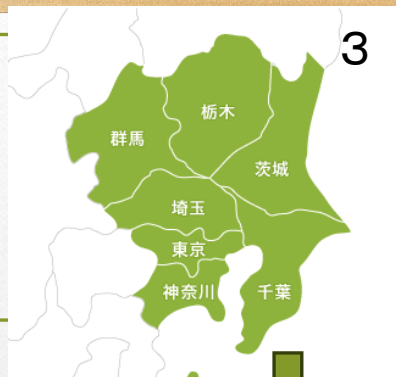
【人 口】 29,963人

【出生数】 139人

【15歳未満人口（率）】 2,435人（8.1%）

【65歳以上人口（率）】 11,955人（39.9%）

* データは、令和7年4月1日現在





ふれあいセンター
(保健福祉本部)

4

鴨川地区

長狭地区

天津小湊地区

鴨川市立国保病院
(災害協力病院)

江見地区

亀田総合病院
(基幹災害拠点病院)

鴨川市役所
(災害対策本部)

安房保健所
(鴨川地域保健センター)



写真は各機関ホームページより

2. 保健師の配置

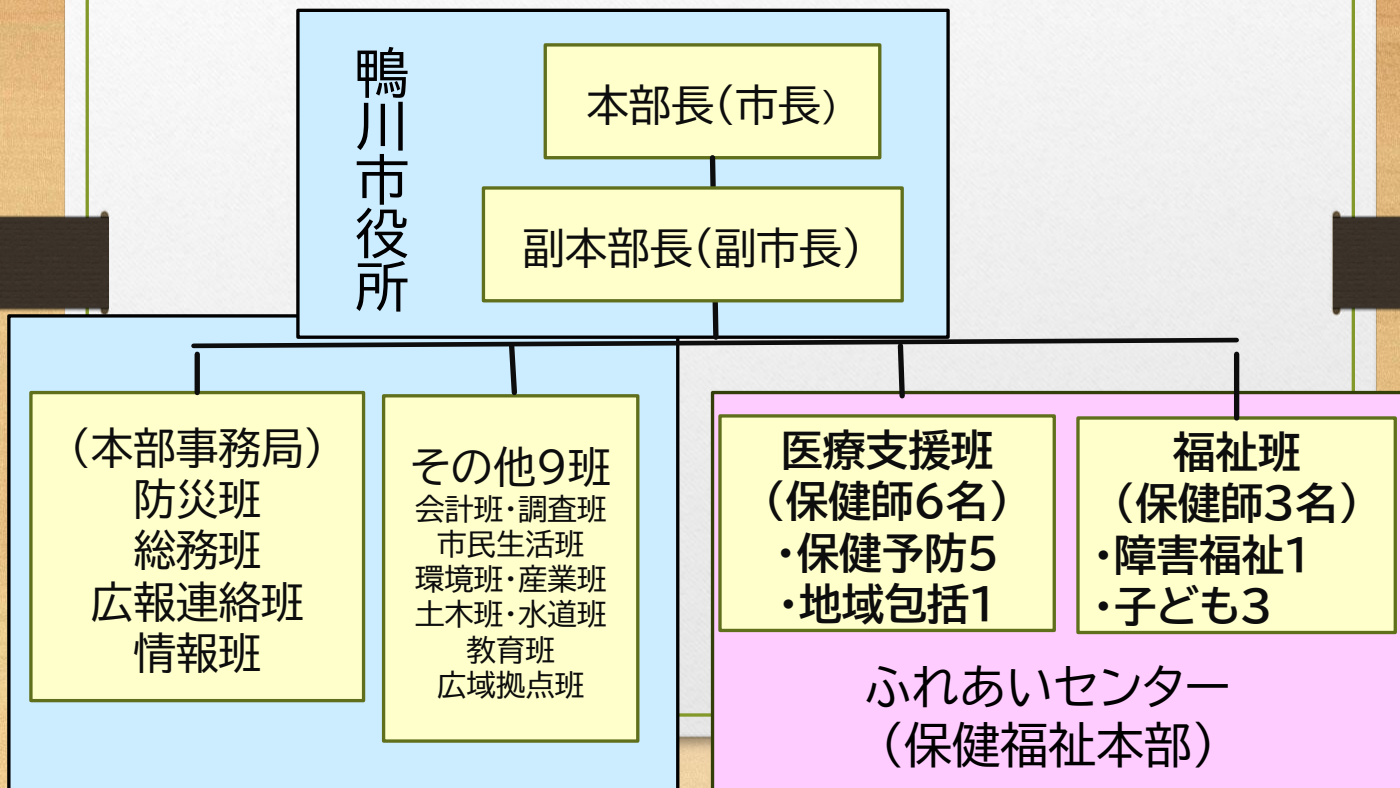
部署	保健師数	保健師の年代 (人数)	業務
健康推進課 保健予防係 地域包括	5 1	60代(1) 40代(3) 20代(2)	・健診・地区 活動 ・地域包括
福祉課	1★	50代(1)	・障害福祉
子ども家庭 センター	3	30代(2) 20代(1)	・母子保健 ・要対協
総務課	1	40代(1)	・職員の健康

保健師定例会（毎月 定例開催）

- ◆ 目的：①部署横断的な保健師の情報共有
②母子事例の検討
③人材育成
- ◆ 参加者：各課保健師
- ◆ 内容：
 - ・ 母子事例の検討・各部署からのお知らせ
 - ・ 地区診断・各部署からの事例提供
 - ・ 災害時保健活動の検討

鴨川市災害時組織図

7



3. 令和元年の台風被害と振り返り

(1) 台風15号(房総半島台風)

9月8日から9日にかけて猛烈な風と激しい雨被害

(2) 台風19号(東日本台風)

10月12日から13日にかけて通過。

台風15号で家屋等が復旧しないまま、大型の台風に見舞われた。

(3) 台風21号 10月25日

2か月の間に3つの台風被害

鴨川市の被害状況

	台風15号	台風19号	台風21号	計
人的被害	0人	0人	0人	0人
停電家屋	18,100軒	10,000軒	30軒	28,130軒
断水戸数	5,755戸	235戸	4,699戸	10,689戸
家屋 全壊	2	0	0	2
家屋 大規模半壊	2	1	0	3
家屋 半壊	42	5	4	51
一部損壊	1,730	309	17	2,056

鴨川市ホームページ「令和元年台風第15号、第19号及び 10月25日の大雨に係る鴨川市災害 対策本部機能の検証結果」より

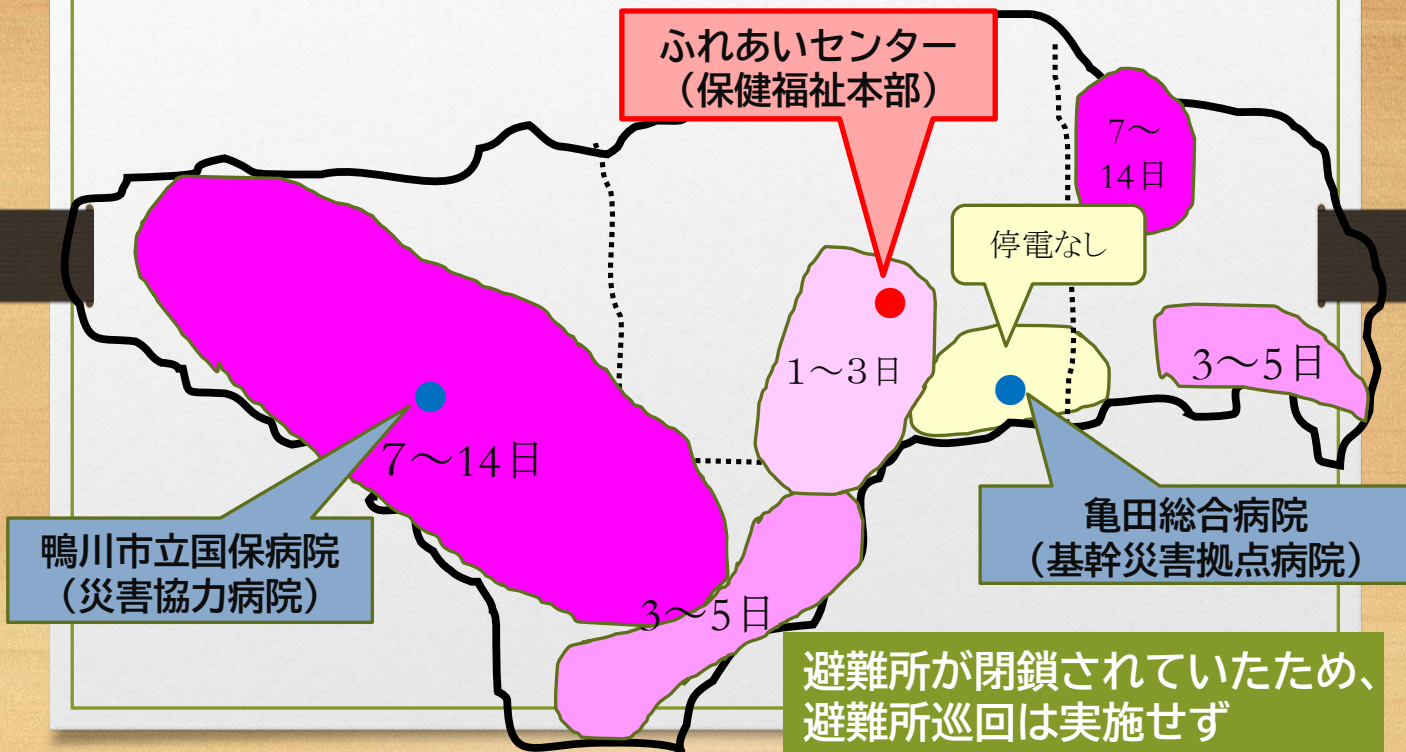
県外保健師チームの応援状況

期間	支援チーム数	チーム員
9月17日～21日 (5日間)	1	保健師 2 調整担当事務職 1
9月18日～22日 (5日間)	2	保健師 2 調整担当事務 2

応援業務：停電地域を中心とした、
災害時要配慮者の安否確認訪問及び健康相談

対象者：要支援・要介護認定者のうち、介護保険サービス
未利用者、独居高齢者、障害者等

鴨川市内の停電状況





受援を振り返って

良かったこと

1. 保健師定例会で地区診断を共有していたこと

支援保健師に各地区の概要をすぐに渡すことができた。

2. 拠点病院関係者と顔の見える関係ができていた

拠点病院の医師等とスムーズに連携して業務を進めることができた。

3. 保健所職員と顔の見える関係ができていた

日頃から保健活動や安房管内保健活動業務研究会を通して、関係ができていたため、連携はスムーズだった。

4. 災害机上訓練を実施していた。

台風直前の9/7（土）に「災害医療机上訓練」を実施し、医療機関市関係者とも災害時の保健活動を経験したばかりだった。

5. 統括保健師・副統括保健師が中心に対応ができたこと。

保健衛生部門保健師と、地域包括支援センター保健師の連携により、災害対応の視点が広がった。

日頃、取組んでいたことはできた



受援を振り返って

課 題

今後の改善点

1. 災害派遣要請のタイミング

停電復旧の見通しの甘さから、災害支援の要請が遅れた。

- ・発災後、早期に保健所と被災状況や応援要請の必要性について検討する。

2. 部署横断的な連携と活動

ふれあいセンターの停電により、要配慮者名簿がプリントできず。要配慮者の担当が、複数部署にまたがるため、連携が図れず苦慮した。

- ・平常時からの名簿整備
- ・保健所、担当部署で要配慮者の優先順位や役割分担を日頃から話し合っておく。
- ・活動の振り返りを行い、部署横断的に課題共有する。

3. 日頃の保健活動と現任教育

- ・日頃の活動が災害時につながることを意識する。
- ・経験年数に応じた役割意識をもつ。

4. 被災経験を踏まえた取組

	取り組み
保健予防係	・「やることリスト」の作成と共有 ・早期に受援依頼できるよう準備 ・高齢者サロン等での啓発・安心、安全メール紹介
地域包括	・「介護サービス事業所等災害時情報伝達マニュアル」を作成し、情報集約をルール化。 ・介護サービス事業所協議会で災害机上訓練の実施 ・事業所におけるBCPの指導
子ども家庭センター	・要配慮者名簿の整備（2か月毎にプリント） ・家庭訪問時に、安心・安全メール紹介 ・両親学級で防災啓発

福祉課での保健活動

- (1) 避難行動要支援者名簿（以下、「名簿」）
登録と支援
- (2) 医療的ケア児等の名簿登録・
個別避難計画作成・避難訓練の実施
- (3) 保健所との連携推進

(1)名簿登録推進

【課題】

- ◆市 ⇒ 障害者（透析患者含む）の名簿登録が進まない。
- ◆透析病院⇒ 災害時の安否確認・透析への通院ができるか。

【保健活動】

- 新規透析患者への名簿登録案内と年1回の登録内容更新に協力。
- 障害者手帳交付時に、避難行動要支援者名簿の登録を案内
- 障害福祉サーサービスの調査時に名簿登録案内。
- 防災に関する啓発

(2)医療的ケア児等の名簿登録・ 個別避難計画作成・避難訓練の実施

【課題】

- ◆ 令和元年の台風以降、「医療的ケア児等」に対する防災意識が高まってきた。

【取り組み】

- 障害福祉サービス利用の面接時に、個別支援計画（避難ぱらん安房）を更新
- 避難訓練実施
 - 自宅周辺の地域リスクのアセスメント・災害時の備えを啓発
 - 地域住民に知ってもらい、共助への啓発
- 保健所・学校・医師・サービス事業所と共有

(3) 保健所との連携の推進

【取り組み】

- ◆ 難病患者への支援に関する意見交換 年1回実施
災害時にリスクの高い事例を共有
- ◆ 難病患者への同行訪問
名簿登録・個別避難計画
地域アセスメント・停電時への備え・
食事等に関する啓発
- ◆ 市・保健所保健師との合同事例検討会

5. 今後について

- ◆ 令和元年の台風災害を経験した保健師の退職・異動
鴨川市だけでなく、近隣市町も同様。
- ◆ 保健師 1 人配置部署における引継ぎの難しさ
- ◆ 保健師の減少による業務負担の増加
- ◆ 課を越えた支援の理解と調整



- ◆ 保健師定例会の継続・記録の供覧
- ◆ 保健所との連携により、近隣市町保健師との共有